

# SHONAN VISION

Social Magazine

Vol.28

2019.12

## BLUE FLAG

### Japanサミット2019 in鎌倉

### 実施報告書



NPO法人湘南ビジョン研究所  
文教大学湘南総合研究所  
NPO法人FEE Japan

PHOTO: AYANO NAKAGAWA

## 実施概要

名 称	BLUE FLAG Japan サミット 2019 in 鎌倉
開催日時	2019年12月1日(日) 13時~18時30分
開催場所	江ノ島湘南港ヨットハウス2階ホール
目 的	日本国内4都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会し、国際環境認証「ブルーフラッグ」認証取得の意義を再確認し、認証ビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的に開催した。

実施内容	①来賓挨拶 ②基調講演 ③先進事例発表 ④パネルディスカッション ⑤交流会
------	---

主 催	NPO法人湘南ビジョン研究所 文教大学湘南総合研究所 NPO法人FEE Japan
-----	---

後 援	鎌倉市、高浜町、神戸市、山武市、神奈川県、 神奈川新聞、tvk、FMヨコハマ
-----	---

協 賛	由比ガ浜茶亭組合、ブルーイノベーション(株)
-----	------------------------

参加者数	150人
------	------

## 開会挨拶

NPO法人湘南ビジョン研究所 理事長 片山清宏

皆様、こんにちは。本日はご多忙のところ、お越しいただきまして本当にありがとうございます。今日は快晴となり、青い海と青い空が見える素晴らしい会場で開催することができました。まさにブルーフラッグサミットに相応しい日となりましたね。

私が初めて「ブルーフラッグ」という言葉に出会ったのは9年前。小さい頃から海が大好きでビーチクリーンを20年くらい続けていましたが、あるとき気付いたんです。「20年間ゴミ拾いしてきたけど、海岸ゴミの量が全然減っていない」と。なんか空しくなりました。

そして色々調べてみると、海岸ゴミは8割が川から流れてくる。海岸ゴミをなくすためには、海岸はもちろん、上流の河川や街を含めた地域全体、そして、行政・企業・市民が一体になって取り組んでいかなければいけないことが分かったんです。



来賓挨拶(山武市長 松下浩明様)



来賓挨拶(鎌倉市副市長 千田勝一郎様)



主催者挨拶(湘南ビジョン研究所理事長 片山清宏)

そのとき出会ったのが「ブルーフラッグ」という国際環境認証制度でした。「高い目標を掲げることで、地域が一体となって海の環境改善に取り組んでいくことができる!」と思い、早速、湘南ビジョン研究所というNPOを立ち上げ、日本での認証を目指す活動を始めました。それから本当に多くの団体の皆さんの協力のおかげで、日本でも4つのブルーフラッグビーチが誕生し、本日のサミットを迎えることができました。

本日のサミットが参加者の皆様にとって有意義なものになりますように、そして、今日のサミットをきっかけに日本全国にブルーフラッグが広がって、日本の海の環境改善に貢献できますように心からお祈り申し上げます。主催者の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします!



## 第1部 基調講演

### 「国際環境認証ブルーフラッグとは何か」

NPO法人FEE Japan理事長 伊藤正侑子氏

#### ■ FEE Japanとは

皆さん、こんにちは。FEE Japan理事長の伊藤です。FEE Japanは、FEE本部より承認を受け、日本国内においてFEEの環境教育プログラムを運営・実施する団体です。設立は2009年1月。ブルーフラッグ、エコスクール、リーフ、グリーンキーの4つを運営・実施しています。

FEE (The Foundation for Environmental Education) とは、環境教育プログラムを通じて持続可能な発展を目指す国際団体で、世界最大規模の環境NPO/NGOのひとつです。

#### ■ ブルーフラッグとは

ブルーフラッグは、世界47の国、4,543箇所で開催されているビーチ・マリナー・観光船舶を対象とした国際環境認証です。

ブルーフラッグ認証では、「環境に関する教育と情報公開」「水質」「環境マネジメント」「安全とサービス」に関する33項目の厳しい基準を通じて、ビーチやマリナーにおける持続可能な発展の実現を目指しています。ブルーフラッグは、SDGsの17のゴールをすべて満たしており、FEEではUNEP（国連環境計画）、UNWTO（国連世界



観光機関)等との連携のもと、世界各国において推進しています。日本での認証は、若狭和田海水浴場（高浜町）、由比ガ浜海水浴場（鎌倉市）、須磨海水浴場（神戸市）、本須賀海水浴場（山武市）の4箇所。アジアでは、日本以外は韓国の1地域で認証されています。

現在、プラスチックごみ、海洋汚染、気候変動などが世界的な問題となっており、これらの解決をめざすことで持続可能な社会を創造していく必要があります。

スウェーデンの若き環境活動家グレタ・トゥーンベリさんは、主に地球温暖化によってもたらされる環境リスクを訴え、世界中の人々へ警告を発信し続けています。2019年の国連気候変動会議での演説などが有名です。その中で「私は安心したい。私たちが人類史上最大の危機にあることを知っているのに、どうして安心できますか？」と、世界中の著名な政治家や実業家に問いかけています。

ブルーフラッグ認証を目標に掲げることは、持続可能な社会をめざすことを表明することであり、世界中の人々に信頼される証となります。



## 第2部 先進事例発表

### 事例① 由比ガ浜海水浴場

#### 「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」

鎌倉市観光課 角田裕亮氏

#### ■「誰もが楽しめるファミリービーチの実現を目指す」

これは、鎌倉市の海水浴場が掲げる目標です。鎌倉市では毎年、多くの海水浴客にお越しいただいており、昨年度も70万人の方をお迎えすることができました。目標を達成するために、私たちも「ブルーフラッグの認知度向上、取組みの推進」は大変必要であると考えています。



鎌倉市は、2016年にアジアで初めてブルーフラッグを取得しました。きっかけは、由比ガ浜海水浴場の管理者である由比ガ浜茶亭組合と、湘南ビジョン研究所から提案を受けたことでしたが、日本初、アジア初のブルーフラッグ取得を目指すことで、鎌倉の海水浴場のイメージを向上させるという意図がありました。

ご存知のとおり、ブルーフラッグは、国際的に認められている安全で安心な海であることの証明です。由比ガ浜海水浴場でブルーフラッグを取得することは、安全・安心なまちづくりを進めるまち、という鎌倉市のイメージアップにもつながります。そのためにも、より多くの人にブルーフラッグの意義を伝え、広げていくことが重要であると考えています。

現在、ブルーフラッグは遊泳期間中、監視所に掲げられています。ただし、天候などの理由により「遊泳禁止」の時は赤旗を掲げるため、「遊泳可能」の青旗と混同しないように降ろしています。

#### ■バリアフリービーチの取組み

今年の夏の由比ガ浜海水浴場は、由比ガ浜茶亭組合の皆さんのご尽力もあり、ビーチを「バリアフリービーチ」



とする様々な取組みを行いました。例えば、海の家と海の家をつなぐボードウォークの整備。全長800メートルにもなるこのボードウォークは、当初は障がい者の方や高齢者、車いす利用者等が安心して海に行けるように設置しましたが、実際に設置してみると、ベビーカーを使う親御さんや、砂浜は歩きにくいと感じている多くの来場者の皆さんから高い評価をいただきました。

また、神奈川県との協力により、海水浴場の入口からトイレ、波打ち際までを結ぶビーチマットの設置も実現することができました。車いすでそのまま浜に降り、波打ち際やトイレに行くことができるようになったため、障がい者の方をはじめ、多様な方々に海水浴を楽しんでいただけるようになりました。私自身、来場者の方が笑顔で楽しんでくださっている姿を見て、とても嬉しく思いました。

#### ■今後の課題

ブルーフラッグビーチである由比ガ浜海水浴場の今後の課題は、2点あります。1点目は、バリアフリー対応の取組みをさらに進めること。2点目は、下水道処理施設を充実させることです。2点目の課題については、今後さまざまな機関と協力して、進めていきたいと考えています。

#### ■今後に向けて

最近、由比ガ浜海水浴場のブルーフラッグの取組みを勉強したい、と小学生くらいのお子さんやその保護者の方が監視所を訪れてくれるようになりました。少しずつブルーフラッグという名前や取組みが浸透してきたのかなと感じています。ブルーフラッグの内容やその意義について、どのように伝えていけばより多くの人に理解していただけるのか、そういったところも研究していきたいと考えています。





## 事例② 若狭和田海水浴場

### 「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」 若狭高浜観光協会 高田慎平氏

#### ■観光から「BLUE FLAG」を考える

高浜町は、福井県にある人口1万人のまちです。京都から電車で2時間、主な産業は農業・漁業と観光、そして原発の町として有名です。



私たちが若狭和田海水浴場でブルーフラッグの認証取得を目指したのは、往時にはたくさんの海水浴客が訪れたこの美しいビーチにお客様を取り戻したいという思いがきっかけです。少子高齢化や日帰り客の増加により、1980年代に120万人いた海水浴客は、現在20万人に減少してしまいました。2013年から若狭高浜観光協会に「ブルーフラッグ推進部会」を設け、ブルーフラッグの認証取得に向けて取組みを開始しました。そして2016年に日本初、アジア初のブルーフラッグ認証を得ることができました。

現在、「ブルーフラッグ推進部会」では「BFビーチの保全と活性化事業」、「海辺の教育・体験事業」、「海辺の活動応援事業」の3事業を小中学校、保育園、幼稚園、教育委員会、国際交流協会など含めた全市的な組織を構築して進めています。

#### ■ブルーフラッグの効果

2016年にブルーフラッグ認証を取得したことにより、高浜町への外国人観光客数が増加したことが大きな効果として挙げられます。2018年は1,242人、2019年は2,250人も外国人観光客の方が高浜町を訪れてくれるようになりました。さらに、この観光客は日帰りだけではなく、宿泊者の方も増えており、町の経済に良い影響を与えていると考えています。

さらに、若狭和田海水浴場がブルーフラッグビーチとなったことにより、民間事業者も様々な動きを見せるようになりました。ブルーフラッグビーチを訪れる外国人向けゲストハウス、ヨガやSUPなどのインストラクターやIターンやUターンによる飲食店の開業など。また、

通年営業する浜茶屋（海の家）も出現し、民間事業者による自主的な機運も盛り上がっています。

#### ■高浜町における課題

少しずつ取組みの効果が見えはじめている若狭和田ビーチですが、いまだ様々な課題が山積んでいます。1点目は観光面での問題。インバウンドによる観光客数の増加はあるものの、海水浴客の入込数は減少し、それに伴い町内での消費活動や宿泊も減少していることで地元経済に深刻な影響を与えています。また、高齢化も進展していることもあり、なかなか思うような外国人観光客の受入体制が整えられないことも課題となっています。

2点目は人的問題です。美しいビーチを保全し続けるためには、地元人材の育成が不可欠です。現在、若狭高浜観光協会では、0歳から2歳児の赤ちゃんを主役に、記念フォトや記念品づくり、健康祈願のご祈祷など楽しい「初めての海体験」をしてもらう「ファーストビーチプロジェクト」というイベントを実施しています。子どもたちの足型をとってキーホルダーにしてご家族に提供しており、「大きくなったら海に戻って遊びにきてね」というメッセージを込めています。

3点目は環境面での課題です。日本海に面した若狭和田海水浴場では、海外のからの海ごみの流入が多く、毎年その処理に大変な苦勞を要しています。しかし、ブルーフラッグにふさわしいビーチであるためには、海水浴場開設期間中だけでなく、一年を通じて綺麗なビーチであることが必要です。

その他、ビーチのみならず町全体の経済性やブランディング・プロモーションでの課題など、ブルーフラッグを通じて解決すべき課題はまだたくさんあるというのが現状です。

#### ■今後に向けて

現在、1万人の高浜町ですが、2045年には約7,000人と、3,000人も人口が減少することが見込まれています。約3,000人の人口減少をカバーするためには、消費面を考慮して8倍、24,000人のインバウンドを呼び込めば持続可能となると考えています。

日本人の僧として初めて「禅」を「ZEN」として欧米に伝えた釈宗演禅師にちなんで「禅」、ブルーフラッグビーチを始めとする豊かな自然「然」、フグやカニに代表される新鮮な海と山の幸が豊富な高浜の「膳」の3つの「禅・然・膳」をブランドイメージとして、ブルーフラッグを基軸とした持続可能な観光施策により、交流人口の増加、国内外からの観光客を呼び込みたいと考えています。



## 事例③ 須磨海水浴場

### 「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」 神戸市海岸防災課長 塩見勝宏氏

#### ■阪神間に残る唯一の自然海岸

神戸市のブルーフラッグビーチ「須磨海水浴場」は、阪神間に残る唯一の自然海岸で、JR神戸線須磨駅前にあります。古くから「須磨の浦」として親しまれてきた須磨海岸は、「枕草子」「万葉集」「源氏物語」にも登場する白砂青松の美しい海岸で、自然環境・水産資源も豊かな海として有名でした。また、海岸の周辺には須磨海浜公園、須磨海浜水族園があり、民間活力を導入した再整備が現在行われようとしています。

2017年に73万人であった海水浴場の利用者は、天候や自然災害の影響等により2019年には21.4万人にまで減少しています。



#### ■ブルーフラッグの取得を目指した3つの理由

須磨海水浴場がブルーフラッグ認証の取得を目指した理由は、「須磨海岸・海水浴場の健全化の推進」「海岸の環境保全や安全性の向上」「観光客数の増加」の3点です。

須磨海水浴場では、酒類を持ち込み深夜まで騒ぐ若者達により、ビーチの治安が悪化し、地元市民の海水浴離れが顕著でした。さらに海の家での薬物使用事件も発生し、地元の小中学校では「児童・生徒が須磨海岸に一人で近づくことのないように」と指導されるなど、悪いイメージが形成されてしまいました。このため、海岸・海水浴場の健全化を強く推進するため「須磨海岸を守り育てる条例」を平成20年に制定し、海水浴場を所管する部局も経済・観光部局から港湾・海岸管理部局に変更となり、健全化をより強く進めてきました。

また、須磨海岸は、海に入るとすぐに深くなる「どん深」と呼ばれる地形であったことや、都市化等により海の汚れがひどくなってきたこと等から、同時に養浜や下

水道整備等の再整備を計画しました。

こうした健全化や再整備の取組みへの評価指標として、ブルーフラッグ認証が使えるのではという庁内からの意見があり、これが認証取得を目指すきっかけとなりました。これまで行政主導でしかなかった健全化の取組みが、ブルーフラッグを取得して掲げることにより、今後は行政と地域が一体となって海岸の安心・安全対策や環境問題に取り組めるのではないかと考えています。

#### ■ブルーフラッグ認証取得までの取組み

健全化の取組みとしては、「海の家」に対する営業時間の厳守、テキーラ・ウォッカの提供禁止やイベント実施規制等を遵守事項として明文化し、違反事案には徹底して対応しています。また、海岸内の禁煙や三輪バギーの進入禁止等も条例に規定して実施しています。また、子ども連れが安全に安心して海水浴を楽しめるよう、2018年度から「ファミリーエリア」を設置し、エリア内の飲酒や迷惑行為を禁止しています。

海岸再整備事業としては、防犯カメラの設置や遊歩道へのフットライトの設置等を行い、「四季を通じて憩い、集い、賑わう海岸づくり」「子ども連れが安全に安心して楽しめる海岸づくり」に取り組んでいます。また、養浜による遠浅に整備された砂浜では、潮干狩りを実施するなど、「漁業振興を通じて賑わう海岸づくり」にも取り組んでいます。

このほか、海岸のバリアフリー・ユニバーサルデザインの取組みとして、東側の海岸に身体に障がいのある方向けのトイレ・シャワー・更衣室を備えた施設（仮設）を整備し、砂浜へのアプローチとして階段護岸にスロープを設けました。地元NPO法人の協力により、砂浜にビーチマットを設置し、車いすでも波打ち際まで行けるようにしています。

今後は環境学習にも力を入れていきたいと考えていますが、小さい頃から海に親んでもらうライフセービング体験の実施や、ごみの分別回収等も地元NPO法人のご協力を得ながら取り組んでいます。

#### ■ブルーフラッグを後ろ盾とした今後の取組み

須磨海水浴場でのブルーフラッグ認証取得は、他の自治体とは少し異なり、須磨海岸が持つ課題や問題点を解決するため魅力化・健全化に取り組んできた中で見えたものであって、認証取得のために取り組んだ事業や施策は正直なところありません。しかし、「行政主導の取組み」から「行政と地域が一体となった持続可能な取組み」とするために、ブルーフラッグ認証の取得が今後の後ろ盾と成り得るのではないかと考えています。

美しい須磨海岸を今後も持続していくためには、地元の市民、漁業者、事業者など皆様のご理解やご協力が何よりも必要です。ブルーフラッグ認証取得は良いきっかけとなるので、しっかり周知を行い、行政と地域が一体となって「須磨海岸を守り育てる」取組みを継続したいです。

## 事例④ 本須賀海水浴場

### 「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」

山武市わがまち活性課 堺裕司氏

#### ■震災後に激減した海水浴客数

千葉県山武市は、今年初めてブルーフラッグの認証を取得しました。そのため、ブルーフラッグ元年である今シーズンの活動を中心にお話したいと思います。

山武市は、千葉県の北東部、九十九里浜のほぼ中央、太平洋の大海原に面した海岸を持つ市です。人口は約5万人。毎年、約200万人の観光客が訪れます。本須賀海水浴場は、市内に6カ所ある海水浴場の中でも一番の海水浴客数を誇るビーチですが、震災前10万人を超えていた客数は、4万人台に減少しています。



#### ■きっかけは市長の一言

松下山武市長が千葉県議会議員の頃から訴えてきたこと。それは、「美しい九十九里浜を次の世代へ引き継ぎたい」でした。その思いから、鎌倉市や高浜町を視察・研究し、ブルーフラッグの取組みに感銘を受けていたそうです。

2018年の市長就任後、松下市長が掲げた多くの施策の一つに、「ブルーフラッグ認証取得」がありました。「ブルーフラッグ認証取得」という目標を掲げ、地域を巻き込み自然保護、環境教育活動に取り組むことにより、地域の活力を取り戻したいとの市長の強い思いから、山武市のブルーフラッグ認証取得への取組みが始まりました。

#### ■ブルーフラッグ取得までの取組み

2018年4月の市長発言から山武市のブルーフラッグ認証取得まで約1年。この間、44日間の海水浴場開設期間中にFEE Japanによるブルーフラッグ全般に関する調査や日本ライフセービング協会による海水浴場安全性調査を受け、20回以上の水質検査を実施、海の家、漁業協同組合、千葉県、障がい者団体など海に関わる利害関係者へ

の説明、相談に足を運びました。

2018年12月にブルーフラッグ認証申請書をFEE Japan提出、年明けに国内審査を通過し、国際審査での指摘事項も回答。2019年4月に厳正な審査を受け認証を取得することが決定しました。この時は職場の同僚がブルーフラッグのロゴ入りのホールケーキを用意してくれ、みんなでお祝いをしました。

ただ、1年間という短期間によるスピード取得であったため、行政主導による取組みの面が強く、認知度が低いことが課題でした。そのため、2019年度はブルーフラッグに関する様々な取組みを積極的に実施しました。

#### ■ブルーフラッグ周知に向けた取組み

『環境教育』の面では、ブルーフラッグの取組みを少しでも多くの方に知っていただくため、「BLUE FLAG環境教育セミナー」を実施しました。当初はブルーフラッグの認知度が低く、参加者が少ないことが危ぶまれましたが、結果として66人の参加者となり、大変盛況でした。FEE Japanの伊藤理事長や湘南ビジョン研究所の片山理事長にお越しいただきパネルディスカッションを行ったほか、実際に海に出てビーチクリーンや海岸の植物観察を行いました。また、「ゴミがもたらす海の生態系への影響」と題したワークショップを実施。子どもたちが真剣な面持ちでゴミと生き物について考える姿に、スタッフも大変感動しました。

『防災』の面では、ライフセービング世界選手権日本代表監督を講師にお招きした「海の安全教室」や、警察署や海の家、近隣避難施設の方々と、海水浴場期間中の津波を想定した机上訓練を開催。また、本須賀海岸での情報掲示板設置、トイレ環境の整備、自然に配慮したせっけんの使用など海水浴場を含む沿岸部の自然環境の維持、水陸両用車椅子の配置、障がい者用トイレの設置など、海の安全・安心に関する情報や取組みを実施しました。

『観光』の面では、7月にブルーフラッグ取得記念イベントとして認証旗掲揚セレモニーを本須賀海水浴場で開催。森田千葉県知事にお越しいただいたほか、山武市出身の世界的ダンサー・菅原小春さんによるダンスイベントを実施しました。また、「はたらく人のヘルスアップ」をテーマにしたストレスマネジメント研修と山武市の自然を融合した体験型モニターツアーでブルーフラッグの紹介、本須賀海岸でのピラティス体験を実施しました。

#### ■今後に向けて

今回、市長の強い思いと、FEE Japanや先進自治体のご支援のおかげで、1年間という短期間で認証をいただくことができました。反面、行政主導による取組みの面が強く、地域や海の関係者への波及はまだまだ時間を要すると思われます。

今後も、各認証自治体と情報共有させていただきながら、観光協会やボランティアの方々と連携を図り、美しい九十九里浜を次世代へ引き継ぐための取組みを継続し、徐々にブルーフラッグが地域に認知され、取組みの輪が広がることを願っています。





## 第3部 パネルディスカッション

「海でつながる人・まち・未来  
～ブルーフラッグ活動を広げるために、  
私たちができること～」

### ■コーディネーター

海津ゆりえ氏 【文教大学国際学部 教授】

### ■パネリスト

- 伊藤正侑子氏 【FEE Japan 理事長】
- 筒井誠二氏 【環境省水・大気環境局水環境課長】
- 川廷昌弘氏 【博報堂CSR推進担当部長】
- 佐藤孝子氏 【海洋研究開発機構】
- 片山清宏氏 【湘南ビジョン研究所 理事長】

**海津** コーディネーターを務めます文教大学の海津です。パネルディスカッションの目的は、多様な専門家との議論を通して、今後BFをどのようにして進めていくか、またコミュニケーション

ツールとしてどう使っていくかを考えていくことです。会場の皆さまからもフリーで発言の時間をもちたいと思います。

それではディスカッションを始めます。まずはパネリストお一人ずつ、自己紹介を兼ねてご自身の活動をお話ください。

**筒井** 環境省の筒井です。環境省では、毎年、全国の水浴場の水質調査結果を公表しています。また、身近にある地域の水環境を知り、見直してもらうことを狙いに1985年に「名水百選」を選定しました。1990年代半ばからは安全性、利便性、地域の取り組みを評価した「日本の快水浴場百選」も選定しています。1998年に55選、2001年に88選、2007年に100選となりました。しかし、これらの制度は定期的に更新がなされる仕組みではありません。一方、BFの認証制度は毎年更新が必要で、毎年、新たに申請ができる、継続していける仕組みになっていることがメリットです。

**佐藤** JAMSTEC(海洋研究開発機構)の佐藤です。横須賀の追浜で海洋微生物の研究調査をしています。JAMSTECで一番有名なのは「しんかい6500」という有人潜水船。私もこれに3度、「しんかい2000」には1度乗って深い海をこの目で見る機会がありました。深い潜水船を持つ国は世界にアメリカとフランスと日本の3つしかありません。

私は25年間、海にかかわってきましたがBFは知りませんでした。10年前から深海の絵本を作り、読み聞かせをしています。宇宙飛行士の毛利さんが「宇宙から見ると陸は1つである」と言ったように、そこに行った人が発することは大事です。海は、

深海が99%を占めます。1992年の調査では東北沖の日本海溝6,277m地点でレジ袋を発見しました。ペヤング焼きそばのカップやプラスチックゴミが落ちていました。プラスチックは分解されないの、この後何回行ってでもペヤングがあることになりませぬ。洗濯機も落ちていました。海底にミズの這ったような跡がたくさんありましたが、これはレジ袋が波で少しずつ動いてできたもの。6,300mに潜った時、珍しい生物と思い写真を撮ったらなんとビールの缶で非常にショックを受けました。皆が知らないところまで汚染されています。ごみを増やさないようにしていきたいです。



**片山** 湘南ビジョン研究所の片山です。当研究所はBFの申請主体となる各自治体をサポートしています。BFの意義はたくさんありますが、「地域と一体になって海の環境を良くしていこうという取り組みのきっかけを作ることができること」が一番大きな意義だと考えています。

「環境」と「経済」の両立は大変難しい。江の島の水深5mのところまで海底に沈んでいるごみを拾う「海底清掃」を企画しました。自主的にボランティアでやるので、きっと喜んでいただけると思い、最初にあいさつに行ったのが漁業関係者。でも、漁業関係者からは、「海底から自分たちの漁で使用する網や道具が出てくるかもしれないし・・・」と難色を示され、商店街関係者からも「これからゴールデンウィークで、たくさんお客様が来る一番いい時期なので、江の島の海にごみがたくさん沈んでいると思われるようなチラシは貼れないよ」と言われてしまいました。

ボランティアで海を綺麗にしたいという人がたくさんいる一方で、海を仕事にしている方々がいます。まさに「環境」と「経済」の現実に挟まれました。しかし諦めず、「日本初のBF取得を目指しています、なんとか協力していただけないでしょうか」とお願いに回り、結果的には各団体が協力してくださることになりました。海は利害関係者が多くなかなか物事が進みませんが、BF取得を目標に掲げることで、皆の気持ちを同じ方向に向けることができるんです。BFは「環境」と「経済」を両立して海の環境改善を進めることができる素晴らしいツールです。

**川廷** こんにちは、博報堂の川廷です。今日配布した資料に僕の顔写真が載っているフリーペーパーがありますので、自己紹介はそれを読んでください。子供たちのために未来を伝えていくことを、ビジネスと非営利活動でやっています。日本では認証はなじまないのが事実です。魚のエコラベルは欧米では7割、8割が普及していますが、日本ではわずか10~20

%。欧米では第三者機関が認証したものを安心安全と思って買います。

BFはフランスで始まりましたが、この制度を日本の市場で普及させるのは極めて難しいでしょう。我々の暮らしには直接の利害がないので、普及させていくためにはすごいエネルギーが必要です。何年後に、ビーチ、マリナ、船舶を、どのように、誰に楽しく使ってもらいたいか、皆さんにイメージはあると思います。「自分たちの頑張りでも世界的な認証を受けて、毎年更新しているんだ」という自信が訪れた人に伝わり共感され、BFのイメージが伝わっていきます。「BFはこうなのです」とはなかなか実感はできないものですので、TVのCMや新聞広告で流すものでもありません。本当のコミュニケーションは「リアルコミュニケーション・実感」です。そこが一番大事だと思います。



SDGsを海の環境活動に紐づけてみました。あくまでも、これは私見です。

- 3.8「保険」健康管理、アクセスの確保
  - 4.7「教育」地球市民意識、海は一つで境界はない
  - 6.2「水・衛生」女性や脆弱な人へ安心な水を提供、汚染の減少
  - 9.4「インフラ・産業化・イノベーション」クリーンな技術でインフラを改善
  - 11.17「持続可能な都市」安全な公共スペースへのアクセスの確保
  - 12.5「持続可能な消費と生産」リサイクル、再利用による廃棄物の大幅な削減
  - 12.8「持続可能な消費と生産」すべての人々が自然と調和したライフサイクルを考える
  - 14.2「海洋資源」海の生態系の保全と回復
  - 16.6「平和」公正な公共機関を発展させる
  - 17.14「実施手段」持続可能な開発
  - 17.17「実施手段」パートナーシップの推進
- SDGsの一番大事なことは「誰も置き去りにしない、最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力をすること」です。

**伊藤** 環境教育は重要なコミュニケーションツールです。まちづくりは行政だけでなく、訪問する人も含めた地域に関わる全ての人たちで行うものです。興味を持たなければ広がっていきませんので、環境教育が重要です。まずそのビーチを知ってもらう。知って初めて興味を持ちます。BFは最低5つの環境教育を実施することが認証基準に入っています。

各団体は非常に苦勞してその5つの環境教育を実施しています。鎌倉市や高浜町のBFでは、たくさんの環境教育を子どもや地域の人もやってくださっていることで、今につながっているんだと思います。地域の人が知ってそれを誇りに思い、さらに他の人に伝える、それがBF環境教育の一番重要な意味ではないでしょうか。

**海津** それでは 次に、BF取得において、何が課題であり、具体的にどのようにすればよいかを考えていきたいと思います。

**佐藤** SDGsもBFもヨコ文字であるが、日本人全員に概念を知ってもらうには、海岸も自分の住処のように身近に思ってもらいたい。自分がちょっとした時に散歩でも行って和む家の延長みたいな所を綺麗にそして過ごしやすく保つ運動がBFだとすれば、もう少し身近に感じてもらえるかなと思います。

**伊藤** FEE本部でもBFとSDGsの紐解けをしており、英文がホームページに掲載されています。小学生に聞くと「最近台風や洪水が問題であり、今日明日は何もなかったが明後日はあるかもしれない」「私、将来結婚できるのか、お金持ちになれるのか、いい会社に入れるのか」、小学生でも自分の10年後、20年後の項目に漠然と不安を持っているんです。2030年までに、169の自目を少しずつ解決することで、みんなの不安を取り除くのがSDGsだと思っています。思いつくところからでよいからやってみましょう。

**川延** SDGsは来年4月から小学生の教科書に、再来年は中学校でも始まります。今、子どもたちにとってSDGsは標準装備。小学生の来年の夏休みの宿題にSDGsが出ているでしょう。これを前提として BFも海のツールとして使うのがいいなと思います。

**海津** 海辺の学校の子供たちが海にBFを学びに来るとなれば良いですね。

**筒井** 昔はMDGsがありました、それはすべての人が対象ではありませんでした。先程、片山さんからお話がありましたが、最初は反対していた人がいても熱意のある人が取組みを始め、それが「面白そう、楽しそう」と思う人が出てくると理解の輪が広がっていきます。環境問題ではそのようなボトムアップの取組も重要です。BFを取得した4地区の海岸は首都圏、近畿圏からのアクセスが良いので人がたくさん来ます。こういうネットワークの場でお互いの事例を知ることができるのは大変意義のあることです。

**片山** BFはボトムアップで進めるのが大切です。今4つの自治体でBFを取得していますが、これが全国各地に広まった時、BFを取ること自体が目的になってしまったり、行政職員だけで進めて市民や地域団体の参加機会がないうちに取得してしまったりという事例が出てしまわないか、とても心配しています。BFは取得を進めていくプロセスが重要だと思います。

そういった思いから当団体では、「湘南VISION大学」という海の学校を2年前に立ち上げ、年間20数講座、1,000人ぐらいの受講生に楽しんでもらえる授業を開催しています。これはボトムアップのための非常に良い仕組みなので、今後BFを取りたい全国の自治体に当大学のノウハウをお伝えしていきたいです。



### ■ 質疑応答

**質問** ボトムアップは大事と分かりました。市と県、国との連携も大事と思いますが、どのようにしていますか。

**片山** 海の環境改善は市町村だけでは進みませんので、おっしゃるとおり国や県との連携も必要です。神奈川県で言えば、黒岩知事にもBFを知っていただき、SDGs推進担当理事もご紹介いただきました。時にはトップダウンの必要で、ボトムアップとトップダウンの両方で進めていくことが大切です。

**質問** 海水浴客が減っていますが、それはある意味良いことではないでしょうか。ごみが減りますし。海水浴場におけるごみ箱やトイレのキャパの適切な数の指標はありますか。

**神戸市** 具体的な数値はありませんが、だいたいの数はおつかいでいます。1日15,000人はやや多いと感じます。海水浴期間中の入れ込み客数は40~50万人がちょうど良いと思います。

**鎌倉市** 指標はありません。多いときには1日30,000人は来場しますが、その時に一番ごみが多いわけではありません。

**高浜町** 指標はありません。昔は年間120万人が訪れ、海の家や民宿も多かったですが、今後、入れ込み客数の増加は見込めませんので、消費単価を上げていかなければなりません。

**山武市** 指標はありません。平成10年代は年間60万人が訪れ、ごみの散乱が目立っていました。このため、サーファーがビーチクリーンを始め今も続けています。しかし、シーズンオフには不法投棄があることもあります。

**伊藤** BFの規定ではごみ箱とトイレの数は適正なことであり、定量的なものはありません。

### ■ パネリストからまとめの一言

**伊藤** 日本やアジア地域では、BFは取得できたら「終わり」の風潮がありますが、重要なのは継続することです。取れた年にすべての基準を完全に満たすのを目指さなくても良い、こんなビーチになりたい、こんな問題を解決したい、ということを明確にして、チームで人々を巻き込んでいくことが大事です。



**川延** BFのブランドイメージは4か所のビーチが作っていますので、このBFのブランドイメージを頑張って日本のビーチへ広げていっていただきたい。

**筒井** 海は変わってきています。人間の行為で変わったこと、日本でいえば人口減少も原因があります。BFの4か所はアクセスの良いビーチですので、海を含めた流域全体の中で発信していただきたい。

**佐藤** 全てのビーチに旗を立てたタヒチのボラボラ島のように、日本の全ての島にもBFが立つといいですね。そして最後には地球に一本の大きなBFが立つように。それがBFとSDGsの将来イメージです。

**片山** BFはやはり一人ひとりの行動が大事。もし、BF活動に参加したい！という方がいらっしゃいましたら、是非、当団体の

会員になってください(笑)。今日はありがとうございました。

**海津** 以上でパネルディスカッションを終わります。パネリストの皆さん、会場の皆さん、ありがとうございました。

## 閉会挨拶

文教大学国際学部教授 菅原周一

今日をきっかけにこうしたブルーフラッグ推進の動きを日本中に広げていきたい、そして継続が大事です。本サミットは来年少も毎年継続して開催していく予定で、来年は福井県高浜町で開催する方向で調整しています。どうぞよろしくお祈りします。本日は長時間にわたりありがとうございました。



ブルーフラッグ認証取得状況等に関するアンケート調査結果 (NPO 法人湘南ビジョン研究所・文教大学総合研究所 2019年11月実施)

	設問	由比ガ浜海水浴場	若狭和田海水浴場
1	認証取得海水浴の所在地	神奈川県鎌倉市由比ガ浜四丁目1101番22地先	福井県高浜町和田
2	アクセス	JR横須賀線・江ノ電鎌倉駅から徒歩15分、江ノ電和田塚駅・由比ヶ浜駅・長谷駅から各徒歩5分	若狭和田駅より徒歩10分
3	申請者	鎌倉市	高浜町・若狭高浜観光協会
4	担当部署	市民生活部観光課	高浜町(産業振興課)、若狭高浜観光協会(ブルーフラッグアカデミー)
5	取得年月	2016年4月、2017年4月、2018年4月、2019年4月(4年連続)	2016年4月、2017年4月、2018年4月、2019年4月(4年連続)
6	アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は海の家があるエリア約800mに海浜組合の協力でボードウォークが敷かれ、波打ち際までも3か所マットが敷かれたことで、車椅子のほか、ベビーカー等でもアクセスが容易になりました。</li> <li>また、水陸両用の車椅子の貸し出しを行っているほか、継続して海水浴場でのマナーアップをPRするなど、「住む人」「働く人」「遊びに来る人」誰にとっても安全・安心で快適な海水浴場を目指しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠浅のビーチで家族で安全に過ごしやすい</li> <li>全国的に珍しい常設の浜茶屋(海の家)、通年営業の浜茶屋1軒</li> <li>水平線に通称若狭富士と呼ばれる山(青葉山)があり風光明媚な風景</li> <li>夕日100選に選ばれている</li> <li>地域住民総出でビーチクリーンを年3回行い海が地域の誇りになっている</li> <li>リゾートではなく海に深くつながった暮らしが垣間見える</li> </ul>
7	取得をめざそうとしたきっかけ	「環境教育と情報」、「水質」、「環境マネジメント」、「安全とサービス」が優れたビーチやマリナーに与えられる国際環境認証の「ブルーフラッグ」について、由比ガ浜海水浴場で海の家を営む組合及びNPO法人湘南ビジョン研究所から、認証の取得に向けた提案がありました。	高齢化により海が守れなくなってきた
8	取得目的	開設から130年以上の歴史を誇る由比ガ浜海水浴場が、今後も多くの方に永く愛される海水浴場となるよう、海を営む組合などと協働し、日本初のブルーフラッグの認証取得を目指しました。	ブルーフラッグをシンボルとした持続可能なまちづくり。
9	取得経緯	認証取得までの課題として、身体障害者向けのアクセス、海水の水質などが挙げられました。身体障害者向けアクセスについては、市で水陸両用車椅子対応要員を配置し、組合で海岸にボードウォークを設置するなど改善を行いました。海水の水質については、検査を組合から業者に発注して対応しました。その他の課題についても、連携している組合と解決に向け協議を行い、対応を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政発信で取り組んだ経緯があり、住民への理解</li> <li>ハード整備(バリアフリートイレやスロープ)</li> <li>ユニバーサルビーチへの取組み</li> </ul>
10	取得に向けた連携主体	由比ガ浜茶亭組合、滑川海浜組合、由比ヶ浜ボート組合、NPO法人湘南ビジョン研究所	ブルーフラッグ推進部会を立ち上げた。メンバーは観光関係者や教育関係者、障害者団体、地域団体など様々なメンバーで構成されており、今後の若狭和田ビーチや若狭和田地区の発展を考える協議体。
11	取得するために支出した予算額	無し(※認証取得に向け、連携した海浜組合と協定を締結し、市が認証の取得手続きを行い、組合が認証の取得及び取得後に発生する経費を負担している。)	2,460万円 取得に向けた費用:情報掲示板設置、トイレの改修、バリアフリー化 任意で実施した費用:機関紙の発行、水陸両用車いす、取得時イベント
12	維持に関わる年間予算	同上	ブルーフラッグ推進事業:400万円 (申請登録費、水質調査、分別ごみ箱管理委託、環境教育プログラム開催、ビーチクリーン用ゴミ袋作成、広報地元啓発、先進地視察・交流) 若狭和田ライフセービングクラブ運営補助:380万円 (監視員人件費、町外応援LSの宿舎賃借料、県外応援LS交通費補助、資格講習会受講料補助)
13	予算支出者	-	高浜町役場
14	維持に向けた活動と連携主体の役割	水質調査…組合負担により、毎年実施 環境教育…逗子市、葉山町との二市一町マナーアップ推進協議会で毎年実施 その他…NPO法人湘南ビジョン研究所主催の環境教育及びブルーフラッグ認証の周知に寄与するイベントについて後援	<月1回のビーチクリーン> 主体:民間事業者(Seaster)、役割:イベントの企画と情報発信 <定期的な協議会の開催> 主体:ブルーフラッグアカデミー事務局、役割:ファシリテーター <環境教育活動拡充のための連携> 主体:ブルーフラッグアカデミー事務局 イベントの補助や自主企画、連携先:福井県立大学、若狭湾青少年自然の家、福井県海浜自然センター、個人事業主2名
15	住民の意識が分かる資料	特にごいません。	<a href="https://www.wakasa-takahama.jp/blueflag/interview/">https://www.wakasa-takahama.jp/blueflag/interview/</a>
16	市民向け説明や告知	取得時の記者発表資料。 その他、毎年取得時に市広報紙への掲載及びホームページでの告知を行っています。	機関紙URL <a href="https://www.wakasa-takahama.jp/blueflag/magazine/">https://www.wakasa-takahama.jp/blueflag/magazine/</a>
17	取得した効果	認証を取得したことで、海水浴場が単に環境面で優れていることを証明するだけでなく、海水浴場を取り巻く地域の方々をはじめ、海水浴場に関わる全ての方の環境に対する理解を醸成することにつながり、多方面で持続可能な海水浴場運営に寄与することから、海水浴客及び関係団体から一定の信頼を得られていると考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海水浴客のマナーが向上した。</li> <li>外国人観光客が増加した。</li> <li>他地域との連携</li> </ul>
18	維持に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者向けアクセス</li> <li>海を営む組合との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の育成</li> <li>海を守っていくために経済や文化の形成</li> <li>ブルーフラッグの知名度</li> </ul>

ブルーフラッグ認証取得状況等に関するアンケート調査結果 (NPO法人湘南ビジョン研究所・文教大学総合研究所 2019年11月実施)

	設問	須磨海水浴場	本須賀海水浴場
1	認証取得海水浴の所在地	兵庫県神戸市須磨区若宮町1丁目および須磨浦通1丁目～5丁目地先	千葉県山武市本須賀 3841 番地 124 地先
2	アクセス	JR 須磨駅、山陽須磨駅よりすぐ。または JR 須磨海浜公園駅より徒歩 8 分	JR 成東駅下車、路線バス約 20 分
3	申請者	神戸市	山武市
4	担当部署	港湾局工務・防災部海岸防災課	経済環境部がまち活課
5	取得年月	2019 年 4 月	2019 年 4 月
6	アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神間で唯一の自然の砂浜</li> <li>・約 1,800ml に及ぶ広い砂浜と松林は日本の者 100 選に指定されている</li> <li>・遠浅化された砂浜、遊歩道が整備され、歩きやすい</li> <li>・駅からすぐの好立地</li> <li>・飲酒等が禁止されたファミリーエリアの設置</li> <li>・障がい者利便施設の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本須賀海水浴場は砂と空と海が造り出す雄大な九十九里浜のほぼ中央に位置し、広大な砂浜とヤシの木が出迎え、夏の海水浴シーズンは首都圏を中心に家族連れが訪れにぎわいます。</li> <li>・ブルーフラッグによる取り組みをきっかけとし、ビーチを利用したいと思う誰もがアクセスできるための施設整備等を進めたことにより、お年寄りや足の不自由な方でも容易に砂浜へアクセスすることが可能となりました。</li> </ul>
7	取得をめざそうとしたきっかけ	須磨海岸の健全化の検討	美しい九十九里海岸を次の世代に引き継ぎたいという市長の思い
8	取得目的	須磨海岸の健全性の向上 海岸の環境保全や安全性の向上 観光客数の増加	ブルーフラッグ認証に向けた取り組みをきっかけに地域と連携を図ることにより、地域活性化につなげる。
9	取得経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須磨海水浴場は平成 20 年度に「須磨海岸を守り育てる条例」を施行して以来、ハード・ソフト両面から健全化・活性化に向けた整備・活動を実施してきた。加えて、日本国内におけるインバウンド需要が増加する中、ブルーフラッグの認証を取得することで、地域において親しみやすい海岸を目指すとともに、近畿地方を代表する海水浴場として世界にアピールするために、ブルーフラッグの認証取得に向けた活動を開始した。</li> <li>・平成 30 年度には本格的に認証取得に向けた事務作業を行い、33 の基準を満たすための理論的整理を行った。特にゴミの投棄については FEE Japan より厳しく指導が入ったため、ゴミの持ち帰り啓発ことどもならず、協力主体(下記、神戸海さくら、藤定運輸株)と共に、ゴミステーションの設置やきめ細やかなゴミの回収等を実施し、海水浴場の更なる美化に務めた結果、平成 31 年 4 月に近畿地方で初めてブルーフラッグの認証を取得した。</li> </ul>	<p>2018. 4 取り組み開始</p> <p>2018. 8 ブルーフラッグ、安全リスク評価 現地審査</p> <p>2018. 9～ 関係機関への説明等 (海の家・九十九里漁業協同組合・銚子水産事務所・千葉県・成東食虫食物群落を守る会・日本ウミガメ協会・NPO 法人山武市観光協会・近隣乗馬クラブ・ビーチクリーンボランティア団体・車いす利用者)</p> <p>2018. 12 JLA 認定海水浴場認定</p> <p>2019. 1 ブルーフラッグ国内審査委員会開催</p> <p>2019. 4 ブルーフラッグ国際審査委員会開催 ⇒ 認証決定</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・観光客への認知度の向上</li> <li>・地域や関係者を巻き込んだ取り組み及び継続性の確立</li> </ul>
10	取得に向けた連携主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)兵庫分析センター：水質調査にて連携</li> <li>・神戸市立須磨海浜水族園：環境教育にて連携</li> <li>・神戸海さくら：スマイルビーチプロジェクトなどの環境教育にて連携</li> <li>・藤定運輸株：海水浴場の美化について連携</li> <li>・神戸ライフセービングクラブ：環境教育/海水浴場の安全性について連携</li> <li>・一般財団法人 日本ライフセービング協会 (JLA)：〃</li> <li>・兵庫県庁：海上災害対策計画について連携</li> <li>・(株)セブレ 24：海水浴場の治安維持について連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人山武市観光協会</li> <li>・本須賀波乗り倶楽部</li> <li>・成東・東金食虫植物群落を守る会</li> </ul>
11	取得するために支出した予算額	1, 087, 907, 134 円 ブルーフラッグ認証申請費、(JLA) 安全リスク評価費、水質調査費、広報活動費、申請資料等作成費、救護活動業務費、下水道整備など	約 500 万円 (H30 約 160 万円、R1 約 340 万円) H30：ブルーフラッグ 審査、安全リスク評価審査、水質調査等 H31：環境教育活動、施設整備 (ウッドロード、情報掲示板、水陸両用車椅子等)
12	維持に関わる年間予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請関連費用 約 40 万円</li> <li>・水質調査 約 70 万円</li> <li>・救護活動業務 約 1,100 万円</li> <li>・環境学習・ゴミ分別等業務 約 3,300 万円</li> </ul>	直接的な経費：年間約 230 万円 審査料、水質調査費、環境教育活動、ウッドロード整備
13	予算支出者	神戸市	山武市
14	維持に向けた活動と連携主体の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人神戸ライフセービングクラブ (海水浴客の安全確保、環境学習)</li> <li>・NPO 法人須磨ユニバーサルプロジェクト (身体障がい者用施設の運用)</li> <li>・NPO 法人神戸海さくら (海岸の清掃)</li> <li>・須磨海岸を美しくする運動推進協議会 (クリーン作戦の実施等)</li> </ul> <p>その他、自治会や婦人会等の地域団体と「須磨海岸の健全化」について、定期的に会議を行い、ブルーフラッグ維持にも繋がっている。</p>	・ビーチクリーン活動・・・毎月第 1 日曜日、本須賀波乗り倶楽部主催の事業に参加
15	住民の意識が分かる資料	-	-
16	市民向け説明や告知	①スマイルビーチプロジェクトホームページでの周知 <a href="http://smilebeach-kobe.jp/">http://smilebeach-kobe.jp/</a> ②チラシの配布	-
17	取得した効果	具体的な効果は出ていないが、海岸の環境問題や安全対策について、行政と地域が一体となって、継続的な取組を行うための指針となっている。	報道機関の取材 (テレビ 1 社、新聞 7 社 12 件)
18	維持に関する課題	・費用。具体的な効果が現れていないため、認証を取得する意義について理解が得られにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・観光客への認知度の向上</li> <li>・地域や関係者を巻き込んだ取り組み及び継続性の確立</li> </ul>





海を守り、未来をつくる

日本初  
開催

# BLUE FLAG in 鎌倉

## Japan サミット 2019

国内4都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会する日本初のシンポジウム

2019年12月1日(日) 13:00~17:00  
(12:30 開場)

江ノ島湘南港ヨットハウス2階ホール (定員100人)

(藤沢市江の島1-12-2 / 0466-22-2128)

シンポジウム参加費 1,000円/人



## 1 基調講演

「国際環境認証『ブルーフラッグ』とは何か」  
伊藤正侑子氏 [NPO法人 FEE Japan 理事長]

## 2 先進事例発表

「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」  
鎌倉市、高浜町、神戸市、山武市

## 3 パネルディスカッション

「ブルーフラッグ活動を広げるために、私たちができること」

## 4 交流会(軽食&amp;ドリンク) 希望者のみ 交流会参加費 1,000円/人

先進事例を発表する4自治体のブース展示あり

兵庫県神戸市  
「須磨海水浴場」福井県高浜町  
「若狭和田海水浴場」ブルーフラッグ認証  
を取得した海岸千葉県山武市  
「本須賀海水浴場」神奈川県鎌倉市  
「由比ガ浜海水浴場」

ブルーフラッグとは、国際NGO FEE (環境教育基金) による世界で最も歴史ある国際環境認証の一つ。①水質、②環境教育・情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準をクリアしたビーチ等に与えられる。1985年にフランスで誕生、現在世界45ヶ国、4,560ヶ所が取得。日本国内の認証海岸は4ヶ所のみ。ブルーフラッグを取得する意義は、ビーチ、マリナー等の周辺地域の持続可能な発展を促進することにある。

[主催] NPO法人湘南ビジョン研究所、文教大学湘南総合研究所、NPO法人FEE Japan  
[後援] 鎌倉市、高浜町、神戸市、山武市、神奈川県、神奈川新聞、tvk(テレビ神奈川)、FMヨコハマ  
[協賛] 由比ガ浜茶亭組合、ブルーイノベーション株式会社



# 海を守り、未来をつくる

## BLUE FLAG Japan サミット 2019 in 鎌倉

ブルーフラッグは、1985年にフランスで誕生し、現在世界45ヶ国、4,560ヶ所ビーチやマリナー、観光事業者が取得しています。日本国内においては、2016年4月に鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、2019年4月に神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」が認証され、国内4か所のブルーフラッグ認証海水浴場が誕生しました。しかし、各自治体が抱える海岸の課題は多様で、各地域では試行錯誤しながら毎年更新しています。

そこで、この度、国内4都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会して認証取得の意義を再確認し、ブルーフラッグビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的に「BLUE FLAG Japanサミット2019 in 鎌倉」を開催します。

### プログラム

#### 第1部 13:00~

##### ● 開会/基調講演 「国際環境認証『ブルーフラッグ』とは何か」

伊藤正侑子氏〔NPO法人 FEE Japan 理事長〕



#### 第2部 13:45~

##### ● 先進事例発表 「ブルーフラッグ認証取得の成果と課題」



###### 事例① 由比ガ浜海水浴場

鎌倉市市民生活部観光課

角田裕亮氏



###### 事例② 若狭和田海水浴場

一般社団法人若狭高浜観光協会

高田慎平氏



###### 事例③ 須磨海水浴場

神戸市港湾局海岸防災課

課長 塩見勝宏氏



###### 事例④ 本須賀海水浴場

山武市経済環境部わかまち活性課

鈴木昌子氏・堺裕司氏

##### ● パネルディスカッション

参加者とのクロスセッションあり

### 「海でつながる人・まち・未来~ブルーフラッグ活動を広げるために、私たちにできること~」



コーディネーター 海津ゆりえ氏〔文教大学国際学部教授〕

鎌倉在住。農学博士。有限会社資源デザイン研究所代表取締役社長、文教大学国際学部准教授等を経て現職。NPO法人日本エコツーリズム協会理事、環境省エコツーリズム推進会議委員、鎌倉市観光協会理事等を歴任。湘南ビジョン研究所理事。

#### パネリスト



伊藤正侑子氏〔FEE Japan 理事長〕

スカンジナビア政府観光局アジア太平洋地区総括本部代表、NPO法人グリーンサンタ基金 代表理事を経てFEE Japan理事長に就任。国際NGO・FEE本部より承認を受け日本において、BLUE FLAG、Eco-Schools、LEAF、Green Key等の環境教育プログラムを運営・実施。



川延昌弘氏〔博報堂CSR推進担当部長〕

茅ヶ崎在住。環境省SDGsステークホルダーズ・ミーティング構成員。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンSDGsタスクフォース・リーダー。神奈川県顧問（SDGs推進担当）、鎌倉市SDGs推進アドバイザー。SDGs第一人者。写真家。サーファー。



筒井誠二氏〔環境省水環境課課長〕

環境省、厚生労働省、国土交通省などで、水行政や廃棄物行政など関わる。2011年インドネシア環境省派遣JICA専門家、2014年環境省除染渉外広報室長、2015年回遊正処理・不法投棄対策室長、2017年アジア太平洋地球変動研究ネットワーク事務局長等を経て2019年8月より現職。



内田一音氏〔障がい者サーファー〕

鎌倉在住。生まれつき左股関節変形症という障がいを持つ。ライフセーバー、水泳教室コーチ。2010年~2019年JPSAロングボード公認プロ。2017年世界アダプティブ・サーフィン選手権優勝。2018年に2連覇達成。「アダプティブ・ビーチ」の実現に向け活動中。



佐藤孝子氏〔海洋研究開発機構〕

理学博士。学習研究社植物学研究所の研究員を経て、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）に所属。専門は圧力生理学、微生物学。NPO法人チームくららのキャプテン「さとちゃん先生」として、国内外で150回以上「絵本の読み聞かせライブ」を開催。



片山清宏氏〔湘南ビジョン研究所理事長〕

藤沢生まれ。1999年厚木市役所、イギリス・スウェーデン海外研修派遣、神奈川県庁を経て、松下政経塾(31期)入塾。2011年NPO法人湘南ビジョン研究所設立(理事長)し海の環境問題に取り組み。慶應義塾大学SFC研究所上席所員。全日本学生サーフィン選手権4位。

#### 第3部 16:00~

##### ● 交流会（軽食&ドリンク） 会場：江ノ島湘南港ヨットハウス2階ホール 交流会参加費：1,000円/人

講師やパネリスト、4都市の関係者、一般参加者で懇親を深めます。どなたでも参加可。

#### 第4部 17:30~

お申し込み  
お問い合わせ

申込方法：湘南ビジョン研究所のメールに参加者のお名前とご連絡先をお送りください。FB、HPからも申し込みできます。

NPO法人 湘南ビジョン研究所

FB

<https://www.facebook.com/shonanvision/>

HP <http://shonan-vision.org/>

mail

[info@shonan-vision.org](mailto:info@shonan-vision.org)

tel 090-9017-2459





概要

名 称	BLUE FLAG セミナー〔入門編〕
開催日時	2019年8月10日(土) 14時~17時
開催場所	由比ガ浜
目 的	国際環境認証「BLUE FLAG」について学ぶ
実施内容	講座、パネルディスカッション、現地見学会
主 催	NPO 法人湘南ビジョン研究所 文教大学湘南総合研究所
協 力	NPO 法人 FEE Japan
参加者数	40 人

講 座

- ①「ブルーフラッグとは何か」伊藤正侑子氏〔FEE Japan〕
- ②「由比ガ浜のBF取得の経緯」角田裕亮氏〔鎌倉市観光課〕
- ③「かまくらプラごみゼロ宣言」高橋謙司氏〔鎌倉市環境部〕

パネスディスカッション

「ブルーフラッグ活動を広げるために、私たちができること」

■コーディネーター

海津ゆりえ氏〔文教大学国際学部 教授〕

■パネリスト

伊藤正侑子氏〔FEE Japan 理事長〕

角田裕亮氏〔鎌倉市観光課〕

高橋謙司氏〔鎌倉市環境部長兼ごみ減量対策課長〕

片山清宏氏〔湘南ビジョン研究所 理事長〕

現地見学会（由比ガ浜海水浴場）

ブルーフラッグの旗・看板の確認、水質調査のデモンストラーション、バリアフリービーチ等の現状確認など

■講師（説明者）

増田元秀氏〔由比ガ浜茶亭組合組合長〕

内田一音氏〔アダプティブサーフィン世界チャンピオン〕

壺岐信二氏〔湘南ビジョン研究所〕

由比ガ浜海水浴場がアジア初のブルーフラッグを取得してから4年。取得に至るまでどのような思いや苦労があったのか。

8月10日(土)、BF認証団体であるFEEJapan、申請団体である鎌倉市、由比ガ浜茶亭組合の3者が一堂に会し、湘南VISION大学と文教大学湘南総合研究所共催のもと開催、40名の方にご参加いただき大盛況でした。

パネルディスカッションでは、会場からもいろんな質問やアイデアが飛び交い議論白熱。「環境教育っていうとハードルが高いけど、「ブルーフラッグってカッコいいよね」みたいなライトな入り方をすれば敷居も低くなるし、賛同者も増えるのでは」といった意見もありました。

その後はみんなでブルーフラッグ認証ビーチ「由比ガ浜海水浴場」に出て「ごみ分別エコステーション」や「ボードウォーク」を現地視察。間近で見た本物のフラッグはとっっても大きくてびっくりしました。水陸両用の車椅子には実際に乗車体験もさせてもらい、水質調査の方法もライフセーバーの方々からご説明いただきました。この様子は9月9日にテレビ神奈川でブルーフラッグ特集として放映されました。

